

About TDK

TDKは、世界初の磁性材料フェライトの事業化を目的として1935年に設立され、「創造によって文化、産業に貢献する」という創業の精神に基づき、様々な製品の開発と商品化に取り組んでまいりました。

今後も、TDKのコア技術である素材技術、プロセス技術、評価シミュレーション技術をさらに高め、顧客のニーズをしっかりとつかみ、顧客の望むものをタイミング良く提供する「真のe-material solution provider」として「Exciting Companyの実現」を目指します。

表紙について

この表紙の写真はチタン酸バリウムを主原料とした粉末を使って作成しました。この粉末は、0.5マイクロメートルにも満たない非常に細かな粒からなり、積層セラミックチップコンデンサの誘電体材料になります。

目次

連結財務ハイライト	2
ステークホルダーの皆様へ	3
特集	
業界をリードするTDKの主力製品と技術	8
TDKのコアテクノロジー：素材技術・プロセス技術・ 評価シミュレーション技術	12
環境保全に関する取り組み	16
コーポレート・ガバナンス	17
部門別売上高	18
営業の概況	19
取締役、監査役および執行役員	26
財務の概況	27
過去10事業年度における主要な財務数値および指標	40
連結財務諸表	41
投資関連情報	68

見通しに関する留意事項

このアニュアルレポートに記載されている、当社又は当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外のすべての事実は、当社が現在入手している情報に基づく、アニュアルレポートの作成時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。

したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。すなわち、当社グループの主たる事業活動領域であるエレクトロニクス・ビジネス市場は変動性が激しく、加えて当社グループは国内のみならず海外においてもビジネスを行っているため、技術、需要、価格、競争状況、各地の経済環境の変化、為替レートの変動、その他の多くの要因が、業績に影響を与えることがあります。なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。



Not Yet!

TDKの業績は間違いなく回復しています。それは過去2期にわたり行ってきた構造改革の成果といえるでしょう。しかし、回復の中身は決して満足できるものではありません。それは、TDKのビジネスが、まだ、本当の成長軌道に乗ったとは言えないからです。